

地域で障がい者支援

ガチャヤきらり 第1号大人気



豊田市が㈱アルティイ(首藤義弘社長、乙部ケ丘)に運営委託している障がい者就労支援事業「共同受注窓口きらり」に先月、豊田市関連の材料やモチーフを使ったグッズを販売する「ガチャヤきらり」

が新登場。高岡地区の豊田地域文化広場へ設置された1号機は、1週間弱で商品が売り切れるなど出足好調だ。

「共同受注窓口きらり」は、障がい者福祉施設で就労支援を受ける人の工賃を上げる目的で始められた事業。市内の施設が商品を製造し、アルティイが商品の企画開発と共同受注窓口、販売のプロデュースを担当する取り組みだ。福祉施設のことを市民に知ってもらうね

アルティイの横山さん(右)と、ガチャヤの設置場所を提供したホームックスの藤原剛さん

らいもある。当初はT・FAC



E内のアンテナショップ運営と、各種イベントでの出店販売、内職の幹旋が中心だったが、収益を増やして工賃を上げたいという思いから、福祉施設で作った菓子を1個100

円でセルフ販売する置き菓子ボックス「オフィスキらり」の設置も平成30年から始めた。現在は公共施設を中心に約100ヶ所に設置し、5つの施設で製造した商品販売している。この取り組みは令和2年度にグッドデザイン賞も受賞した。

今回の「ガチャヤきらり」は、菓子を製造できない施設にも参加してもらいたい思いで考案され、地域文化広場を指定管理する㈱ホームックスの協力で実現した。1号機では8つの施設で作られた石けんやハンカチ、アタラシサリー類などが1個100円で販売されている。

先月末にはホームックス本社に2号機が設置され、夏頃には高橋コミュニティセンターに3号機を導入する予定だ。アルティイの横山紗季さん(34)は、「障がい者福祉施設のことを市民に知って頂くとともに、ガチャヤで安定販売することで就労支援を受ける方の工賃アップにつなげたいです」と話していた。

【吉田直樹】

地域文化広場に5月設置